

平成 25 年度  
「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」  
(研修・教育プログラムの作成)

# 活用ガイド

---

早稲田大学 研究戦略センター 教授  
中島 一郎



この講義マテリアルは、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備」（研修・教育プログラムの作成）事業により作成されたものである。以下、この講義マテリアルを用い、URA の能力及び活動内容の向上を図ろうとされる方々の参考のために、活用の際のポイントを記しておきたい。

## 1 講義と講義マテリアルのねらい

URA の能力向上のための研修・教育方法については、講義、ケース演習、実務を通じての修得（OJT）などが考えられる。このうち、講義は、既に定着した知識を体系的に修得する際に効果的とされる。これに対して、現実の課題を整理・類型化したケース集に基づく演習は、実践的な応用力を磨く上で有効な方法と考えられる。また、日常、上司・同僚の活動に学ぶことも研修・教育機会として重要である。

講義マテリアルの作成にあたっては、URA に期待する能力とその修得方法についての国内の大学・研究機関を対象にした調査を行うとともに、米国等の海外の講義カリキュラムの先行事例の調査を行った。それらの結果に基づき、URA の活動に必要な共通的知識であって、講義による修得に適したものを講義科目としてまとめた。

このため、講義科目には、特定専門的な活動や、個別大学に固有の内容は必ずしも含まれていない。それらについては、既存の専門的な研修や、それぞれの大学が固有の課題について用意する研修で補完されることを期待している。

逆に、講義マテリアルとして作成した内容は、URA に共通して求められる知識であり、機会をとらえて修得しておくことが望ましい。

## 2 対象レベル

科目によって多少の違いはあるものの、大部分は初・中級レベルを想定して作成されている。各科目のシラバスの「対象レベル」欄に対象レベルを記載している。また、表 1「講義科目一覧」の「対象レベル」欄にはそれらをまとめて記載した。

これらに記載された対象レベルについては、あくまで参考として考えていただき、各 URA の必要に応じて受講を検討されるようお願いしたい。たとえば、経験を積んだ URA であっても、知識の再確認や、まとまった学習機会として受講することの意味は大きいと考える。

### 3 科目の全体構成と受講順序

全体の構成は、入門的な序論（2科目）、2つの共通的科目群（10科目）、3つの専門科目群（10科目）の22科目で構成されている（図1「講義科目の構成」参照）。

序論は、URAの初任者か、これからURAを目指す者を対象に想定している。企業あるいは官公庁等とは異なる大学マネジメントや、そもそもURAとはどのようなものなのかについて、基礎的知識を修得することを目指している。

2つの共通科目群は、URA活動に必要な共通的知識の修得を目指すものであり、初任者や経験の浅い段階で、まずこれらを学ぶことを想定している。このため、大多数の科目の対象レベルは初級として作成している。このうち、共通科目群AはURAにとっての必修科目と考えていただきたい。この分野についての知見が乏しい場合は、まず、入門的講義である「大学とコンプライアンス概論」を受講し、科目群が扱う内容の概要を理解した後、各科目を履修する順序を踏むことを薦める。なお、ライフサイエンス分野の2科目については、業務上の必要に応じた受講を検討されたい。

次に、3つの専門科目群は、たとえば現在の所属や担当業務に関する科目群を優先して受講し、余裕のある時に他の科目群も受講するというように、受講の順序や優先度は、各URAごとに適切に考えていただきたい。専門科目群の大多数の科目は初級・中級共通に設定している。このうち、「研究力調査・分析」については、中級向けの「手法」篇に加えて、初級レベル向けの「入門」篇を用意しているので、受講者のレベルに応じて活用されたい。「地域連携」については必ずしも全員が受講することを前提とするものではなく、業務上の必要性があり、かつ、その分野の経験も有するURAが選択科目として受講することを想定している。

### 4 スキル標準との関係

スキル標準における各スキル項目と講義科目のおよその対照関係は表1のとおりである。

### 5 各科目の内容構成

各科目の内容は、目次、シラバス、本文、参考文献、著者略歴から構成されている。

シラバスには、科目名、形式（講義回数）、目的及び概要、キーワード、計画、達成目標、教材・資料を記載している。これら一般的

な項目に加えて、受講者の便宜や、実際の講義プログラムを計画する際の参考のため、講師プロフィール、対象レベル、想定される予備知識の項目も設けてある。なお、シラバスに記載された講義回数（1回90分を前提）は参考例と考えていただきたい。

講師プロフィールは、各科目の担当著者が講義マテリアルの作成に当たって想定した講師像であり、内容に明るく、十分な講義のできる講師であれば、もちろんこれにこだわるものではない。

想定される予備知識の水準についても、参考として示したものであり、記載の学識レベル（学歴）を形式的に適用する必要はない。

## 6 他で聴講可能な既存科目との関係

大学における MBA、MOT、MPA（公共政策や公共経営研究科など）などのカリキュラムでは、URA 活動に関係がある講義や演習も少なくない。また、安全管理など、専門的な研修会が開催されているものもある。これらの一般に聴講が可能な研修・教育機会が存在するものについては、それらの講義や研修会の活用を図ることを前提に、講義マテリアルとして新たに作成する科目からは除外した。

米国等の URA 関連の大学院カリキュラムでは、MBA、MOT で扱われている科目（たとえば、戦略論、組織論、リーダーシップ論など）が含まれている。わが国における研修・教育に当たっては、必要に応じて、これらを MBA や MOT の科目聴講によって補うか、URA 研修・教育カリキュラムの中に当該講義を取り込む等の方法によって補完することもあり得よう。

## 7 講義マテリアルにおける引用の扱い

講義マテリアルの作成に当たっては、著者以外の第三者の著作権との関係から、他の文献等からの引用については引用元の表記のみとし、引用内容そのものは掲載していない。このため、講義マテリアルを講義教材として使用する際には、引用内容をあらかじめ適切に復元し、一般の出版物のような体裁に準備することで受講者の便宜を図る工夫が必要になる。

## 8 著者と著作権

各科目の著者は表 1 のとおりである。著者略歴は各科目の末尾に付した。著作権は本委託事業の完了とともに文部科学省に移転する（著作者人格権は著者に属する）。

なお、内容の一部には著者の個人的な見解にわたる部分もある。

科目内容の記述に当たっては、可能な限り共通的理解に基づいたものとするを各著者にご努力いただいたところであるが、わが国における URA システム整備はまだ日が浅く、必ずしも共通的理解が確立していない領域もある。講義の内容理解を進める観点から、個人的見解を用いた部分があることについてご理解をいただきたい。

本講義マテリアルの作成に当たっては、各科目著者をはじめ、多くの大学・研究機関等の方々のご協力・ご支援を仰いだ。深く感謝申し上げます。本講義マテリアルが広く活用され、URA の皆さまや大学・研究機関のお役に立てればこれに勝る喜びはありません。

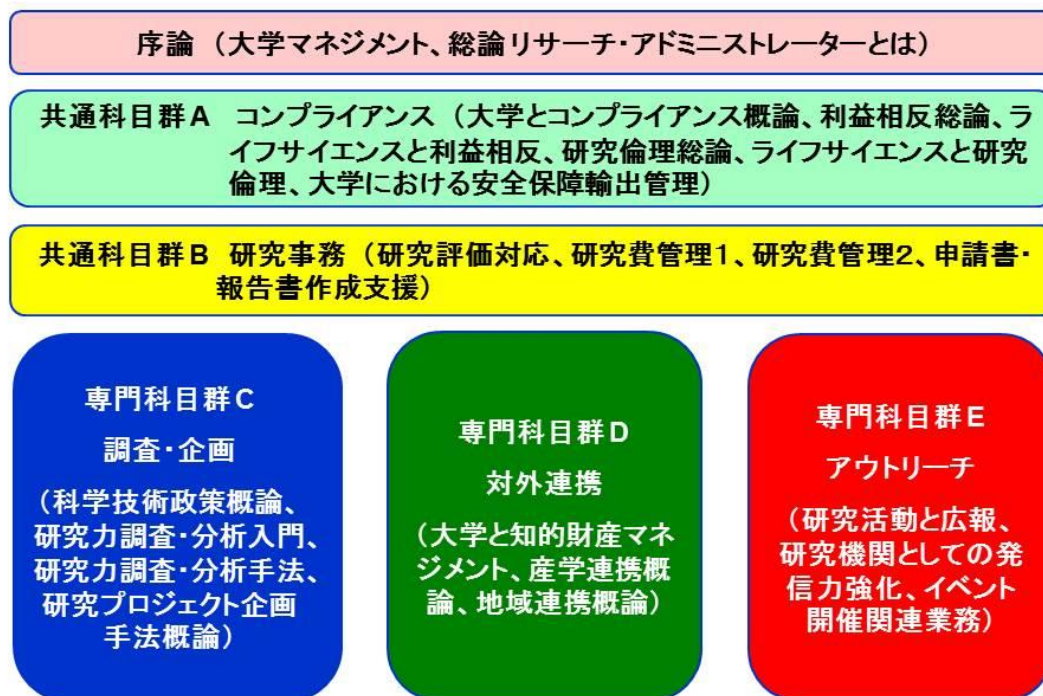


図1 講義科目の構成

(序論〈2科目〉、共通科目群2〈10科目〉、専門科目群3〈10科目〉、合計22科目)

表1 講義科目一覧

形式	講義科目名	選択	対応スキル	担当者		対象レベル
講義	<b>序論</b>					
	1 大学マネジメント			東京大学	佐久間一郎	初級
	2 総論 リサーチ・アドミニストレーターとは			理化学研究所	高橋真木子	初級
	<b>共通科目A</b>					
	3 大学とコンプライアンス概論		4-9	九州大学	岡田昌治	初級
	4 利益相反総論		4-9	産業技術総合研究所	福岡徹	初級
	5 ライフサイエンスと利益相反		4-9	東京女子医科大学	河原直人	初級・中級
	6 研究倫理総論		4-9	産業技術総合研究所	湯元昇	初級
	7 ライフサイエンスと研究倫理		4-9	東京女子医科大学	河原直人	初級・中級
	8 大学における安全保障輸出管理		4-9	九州大学	佐藤弘基	初級
	<b>共通科目B</b>					
	9 研究評価対応		3-4	京都大学	柘原岳人	初級・中級
	10 研究費管理1		3-3	早稲田大学	研究推進部	初級
	11 研究費管理2		3-3	早稲田大学	研究推進部	初級
	12 申請書・報告書作成支援		2-5,3-5	早稲田総研イニシアティブ	山田晃久	初級
	<b>専門科目C(調査・企画)</b>					
	13 科学技術政策概論		1-1	科学技術振興機構	内丸幸喜	初級
	14 研究力調査・分析入門		1-2	早稲田大学	松永康	初級
	15 研究力調査・分析手法		1-2	早稲田大学	松永康	中級
	16 研究プロジェクト・企画手法概説(※)		2-1	早稲田大学	中島一郎	初級・中級
	<b>専門科目D(対外連携)</b>					
	17 大学と知的財産マネジメント		3-2,4	東北大学	塩谷克彦	初級・中級
18 産学連携概論(※)		2-4,3-1,4-3	大阪大学	宮田知幸	主として初級	
19 地域連携概論(※)	選択	2-4,3-1,4-3	北九州テクノサポート	影山隆雄	中級	
<b>専門科目E(アウトリーチ)</b>						
20 研究活動と広報		4-6	東京農工大学	伊藤伸 丸山浩平	初級・中級	
21 研究機関としての発信力強化		4-5	大阪大学	岩崎琢哉	初級・中級	
22 イベント開催関連業務		4-7	大阪大学	岩崎琢哉	初級・中級	
<b>トピックスに応じた個別セミナー等を期待</b>						
各大学内	大学の研究戦略(各大学別)		1-3,2-1			
セミナー	科学技術政策動向(新制度・公募情報を含む)		2-2			
<b>既存の専門講習の活用</b>						
専門講習	安全管理関連業務		4-8			

(担当者名敬称略、所属は2013年12月現在)

※の科目ではケース演習との併用が効果的



タイトル 文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(研修・教育プログラムの作成)  
講義教材「活用ガイド」

著者 中島 一郎

監修 学校法人 早稲田大学

初版 2014年2月28日

本書は文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」(研修・教育プログラムの作成)事業の成果であり、著作権は文部科学省に帰属します。